



ベガルタ仙台レディース 後援会通信

2020年10月31日発行

編集・発行／

ベガルタ仙台レディース後援会

vol.3
(通算 vol.39)

緊急特集

ベガルタ仙台レディース時代を振り返る

経営権の株式会社マイナビへの譲渡（2021年2月1日付 チーム名変更「マイナビ仙台レディース」）、一般社団法人日本女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」への参入決定（2021年秋開幕予定）と、チームを巡る環境が大きく変化しようとしています。トップチームの混迷も絡み、今後の動向が気になるところですが、後援会として今できることの1つとして、現在の「マイナビベガルタ仙台レディース」の姿を、ベガルタ愛に溢れる後援会員の目から、記録しておきたいと思ひます。

コロナ禍だけど、行って
きました観戦記

9/20(日)「新潟で今季アウェイ初勝利」

今季前半戦9試合を終えて、1勝5敗3分となかなか勝ち星に恵まれず、アウェイでは未勝利だったマイナビベガルタ。ついに新潟の地で今季アウェイ初勝利を挙げました。
新潟市陸上競技場で行われたアルビレックス新潟レディース戦。開幕戦0-1で破れた新潟から前半31分#20白木選手がゴールを奪い先制。再三ゴールを脅かされますが、体を張ったディフェンスで無失点に抑え勝利を飾りました。（津村）

9/26(土)「角田で4年振りの勝利！」

前節アウェイ新潟戦で勝利し、今季2勝目を挙げたマイナビベガルタ。2018年シーズン以来白星を挙げられていないノジマステラ神奈川相模原と角田市陸上競技場で対戦しました。
押し気味に試合を進め、28分#6浜田選手のゴールで先制し、1点リードで前半を終了。相手ゴールに再三迫るも追加点こそ奪えませんでした。マイナビベガルタとなってから勝利を挙げられていなかった角田の地で遂に勝ちました。今季初の連勝で勢いづいてきました。（松坂、津村、川口）



10/4(日)「3連勝！」

9/20のアウェイ新潟戦(1-0)、9/26のホーム:ノジマ戦(1-0)に連勝した勢いでアウェイ愛媛に乗り込んだマイナビベガルタ。愛媛FCレディースとの公式戦での対戦は、チャレンジリーグに所属していた2012シーズン以来8年振りとなりました。連勝の勢いそのままに前半で2点を先取。後半は押し込まれる時間帯もありましたが、守りきり2-0で3連勝。しかも3試合とも無失点での勝利です。（津村）

四国松山の風にはためく
マイナビベガルタフラッグ



おなじみになってきた試合開始前写真撮影のV字隊形

「思い出のゲームベスト3」 津村雅敏

シリーズ観戦記2/3

7年前に仙台に転勤してきてベガルタレディースに出会い、仙台を離れ2年経った今でも応援している転勤族会社員です。コロナ禍前は様々な場所に飛び回り、試合観戦をしていました。そんな日が1日も早く戻ってくることを祈りつつ、現地で観戦した「思い出のゲームベスト3」今回は第2位をご紹介します。

【第2位】

2018カップ戦Bグループ第5節ノジマステラ戦(2018.6.9) 会場は福島県のいわきグリーンフィールド。いわき開催ながらホームはノジマ。このシーズンはなかなか勝ち星に恵まれず越後監督が退任。この試合から強化育成部長だった千葉氏が監督に再登板。監督交代がどう作用するのかドキドキしながら向かったいわきで待っていたのはゴールラッシュでした。15,19,24分と立て続けにゴールを決め3-0。32分に1点失うも47,52分に加点し5-1で勝利。このまま連勝街道と思いましたが、現実はその甘くはなかったのです。



写真:チーム トレーニングブログから

第1位もこのシーズンの試合です。次回後援会通信をお楽しみに。



©1999 VEGALTA

元サッカー選手 現在、一般社団法人solufaction 代表理事 中田麻衣子さんにお話を聞く



出身は仙台、常盤木学園高等学校サッカー部から岡山湯郷Belle、愛媛女子短期大学サッカー部、愛媛FCレディース、再度岡山湯郷Belle、とサッカー選手としての活躍の場が瀬戸内だった中田さん。現役を退いた現在は、仙台に戻ってスポーツに関わる事業を立ち上げ、活動を広げている。

チャーミングな笑顔で迎えてくれた中田さん、訪ねたのは10月5日、前日にマイナビベガルタ仙台レディースと愛媛FCレディースの対戦があり、マイナビベガルタが勝利したばかり。このカードではどちらを応援しますか？とちょっと意地悪な質問から始めた。「難しいけれど、やっぱり愛媛かな、愛着があるから」と。中田さんの、これまでの足取りと現在のサッカーへの思いを尋ねてみた。

■ 抜群の運動神経

小中学生時代はバレーボールをしていたという中田さん、常盤木学園という名門サッカー部に入部したのは、彼女の運動センスを見込んだ先生からの作戦だったらしい。加えて、どうせやるなら強いところで、という彼女自身、負けない強さもあって振り返る。「バレーボールをしていてお陰で、ボールの落下点が分かる。ヘディングが得意になった(笑)」とけりと言っている。「現役時代の得点も、ヘディングシュートが多かったかも」と。興味ある方、調べてみてください。選手としては華奢な体型に見えるが、ご本人は「持ち味はスピードと体力」と言う。何でも、大学の陸上部の先生に「アキレス腱が凄いい」と言わせた、というエピソードもあるのだとか。

■ 様々な出会い、サッカーを続けた思い

チームで戦う楽しさ、得点した時に一緒に喜び合える一体感、サポーターの応援の中でプレーする高揚感、中田さんがサッカーを続けたのは、こうしたサッカーの魅力を感じていたからだ。だが、そんな彼女にも、サッカーを続けるかどうか、選択の分かれ道もあったようだ。美容師を目指していたのに、サッカー選手度として湯郷に、湯郷を辞めサッカーは遊び程度にするつもりが大学サッカー部へ、大学卒業と同時にサッカーも卒業の予定が愛媛FCレディースへ…中田さんの活動の転換期には、常にサッ

出会いをチャンスに前向きに取り組んできた。そしてこれからも

カーに導かれる出で、この資格取得のサッ時期に、子どもでできたかった。子どもの未来を重ねた。大学からの誘いを躊躇して、大学から飛び込んだ。載された資格は7種類。チャン

が、このサッ時期に、子どもでできたかった。子どもの未来を重ねた。大学からの誘いを躊躇して、大学から飛び込んだ。載された資格は7種類。チャン

が、このサッ時期に、子どもでできたかった。子どもの未来を重ねた。大学からの誘いを躊躇して、大学から飛び込んだ。載された資格は7種類。チャン

ベガルタ仙台レディースでプレーしたいと思ったことはなかったのだろうか？当然あった、地元で恩返ししたい気持ちがあったが、残念ながらタイミングが合わず、断念したのだそう。見てみたかったな。

■ 未来に向けた今の活動、

サッカーファミリーとして

「フットボールでハッピーに」を掲げ、子どもから高齢者までの豊かなスポーツライフを提案する、という一般社団法人solufaction(ソルフアクション)の代表理事を務める。女子サッカーに限らずスポーツの普及拡大と、各世代における健康課題の改善を目指すこの取組は、これまでの競技人生や多様な出会い、様々な就業経験、取得した資格などを活かした中田さんらしい発想だ。我々後援会の「女子サッカーの応援」趣旨とも合致し、連携協働できそう。

コロナ禍、ベガルタからの分離、マイナビベガルタ仙台レディースを取り巻く環境は厳しい。「正直、ベガルタ仙台から離れるのは淋しい。ユニフォームの色にも愛着がある。でも、選手は変わらない。サポーターの皆さんに、サッカーファミリーとして変わらず応援していたたく事をお願いしたい。」と結んでくれた。



文：Naito

取材日：10月5日

